

# 演劇祭来場者の行動に時空間的影響を及ぼす要因

—豊岡演劇祭 2023 初回来場者とリピーターの比較—

直井岳人 野津直樹 河村竜也

## Factors that have Spatio-temporal Impacts on the Behavior of Theater Festival Participants: Comparison of First-timers and Repeaters

NAOI Taketo NOZU Naoki KAWAMURA Tatsuya

### Abstract

This study aims to shed light on the interrelationship between theater festival visitors' past and on-site behavior and their evaluation of the festival and each of the following variables, namely the number of neighboring major visited tourist destinations (the spatial impact) and visitors' intention to visit outside the festival period (the temporal impact). Responses from 846 non-residents to the official questionnaire of Toyooka Theater Festival 2023 were subjected to analysis. As a result, "the total number of places visited" was found to correlate positively with "the number of annual theater performances attended" and negatively with "the importance of the festival on their trip." "Intention to revisit the venue" was significantly correlated with a range of factors concerning visitors' preceding factors and evaluation of their experiences, and also their past visits to the festival and the venue. These results point to the spatio-temporal effects of theatre festival visitors' past visits as well as the evaluation of their experiences on their behavior.

**Key words:** Spatio-temporal Impact, Theater Festival, Past visit, Revisit intention

(2024年3月3日受付, 2024年7月31日受理, 2024年9月30日発行)

### 1. はじめに

多くの芸術祭では、地元住民への芸術鑑賞の機会の提供、地域コミュニティ内の繋がりの形成といった地域貢献に加え、開催地の認知度、イメージの強化や訪問客の誘致が目指されている (Hughes, 2000)。こうした訪問には3つの意味が含まれると考えられる。まず芸術鑑賞を主目的とした訪問である。2つ目は会期中の会場周辺への訪問であり、本稿ではこうした訪問が喚起されることを「開催地の観光への空間的影響」とする。3つ目は会期外の開

催地訪問である。芸術祭は特定期間内に開催されるが、来場者が開催地の見所に魅了され、会期外に開催地を再訪するケースがその例である。本稿ではこうした訪問の喚起を「開催地の観光への時間的影響」とする。

本研究では、芸術祭の一形態である演劇祭への来場者を対象とし、彼らの観劇行動及び芸術祭に対する評価、過去の開催地への訪問及び演劇祭への来場経験と、来訪した主な周辺観光地の数 (空間的影響)、演劇祭期間外の開催再訪意向 (時間的影響) の関係を明らかにすることを目的とする。本研

究では、兵庫県豊岡市、養父市、香美町で2023年9月に開催された豊岡演劇祭2023の公式来場者アンケートへの、調査時に開催地(2市1町)外に居住していた来場者の回答をデータとする。この点は2022年9月開催の豊岡演劇祭2022の公式来場者アンケートへの非居住者の回答をデータとした先行実証研究(直井・野津・河村, 2023)と類似するが、過去の開催地への訪問及び演劇祭への来場を変数としている点が先行実証研究との主な違いである。

## 2. 研究の背景

観光研究の分野では主目的に伴う副次的な観光の存在が認識されており、MICE参加者(Yoo & Chon, 2008など)、スポーツイベント参加者(Funk et al., 2007など)の、開催地に関わる心理的要因を研究対象とした研究がある。特に演劇祭では、来場者が上演時間前後に時間的余裕を持つ必要があり、回遊という副次的な観光が生まれやすいと考えられる。ただ、イベント来場者の観劇経験と彼らの回遊および会期外の開催地への再訪意向との関係を分析した研究は、先行実証研究(直井ほか, 2023)を除いては見当たらない。

直井ほか(2023)では、豊岡演劇祭2022の公式来場者アンケートへの、開催地外からの来場者の回答をデータとし、来場者の観劇経験、回遊行動、会期外の開催地への再訪意向を示すと思われる項目への回答間の相関関係を分析した。その結果、会期中の回遊や会期外に開催地を訪れるといった「演劇祭来場者の行動および行動意向」と、演劇祭に関する経験・評価といった「来場者の会期中の経験に関わる要因、および「来場者がもともと観劇に関して持っていた先有傾向」の間に有意な正の相関関係が見られた。以上から、演劇祭の来場者行動への時空間的影響を説明するモデルには、回答者の会期中の経験に関わる要因と、回答者の芸術に関する先有傾向にあたる要因を組み込む必要性が示唆された。

ただ、直井ほか(2023)の研究には、「会期外の開催地への再訪意向」という来場者の将来の行動に關

する変数は含まれるが、来場者の過去の行動に関する変数は含まれない。豊岡演劇祭は2020年、コロナ禍による中止を挟んで2022年、2023年のそれぞれ9月に開催され、豊岡演劇祭2023の公式来場者アンケートより、演劇祭への来場歴を尋ねる項目を含めている。本研究では、この追加質問への回答と過去の開催地への訪問歴に関する質問への回答を変数に加え、回遊行動、会期外の開催地への再訪意向を示すと思われる回答との相関関係を明らかにすること目的とする。

観光研究の分野では、行動追跡の手法を用いて訪問客の移動と過去の訪問経験の関係を分析した研究が見られる。ShovalとIsaacson(2009)による行動追跡研究では、都市訪問客の中では初回訪問客の方が移動範囲が狭く、主要ルートの利用が顕著だったことが示されている。MurphyとOppermann(1977)は、訪問客のある都市への訪問回数が増すほど、訪問毎にその人がその都市内で訪問する場所の数は少なくなると述べている。またGali-EspeltとDonaire-Benito(2006)による行動観察を用いた歴史的町並みにおける訪問客の移動に関する研究では、過去の訪問経験がより豊富で複雑な移動に繋がることが報告されている。以上の研究が示す傾向にはばらつきがあるが、訪問経験によって広域移動の範囲が絞られる一方、町並みのような狭域内移動は複雑化する可能性があると解釈される。なお、来場者の過去のイベントへの来場経験と彼らの回遊行動および会期外の開催地への再訪意向の関係を明らかにした研究は、筆者の管見の限り見当たらない。

最後に、本研究と先行実証研究(直井ほか, 2023)のデータの比較に関する制約について述べる。豊岡演劇祭の公式来場者アンケートでは、回答のしやすさの改善、主催者の目的に合った情報の取得のため、内容を見直している。演劇祭への来場歴を尋ねる項目を加えたのもその一環であり、同じ質問項目でも回答方法を変更したものがある。従って、先行実証研究と本研究のデータを合わせて傾向の違いを明らかにすることは難しい。本稿では、豊岡演劇祭2023のデータを基に、過去の開催地への訪問及び演劇祭への来場を変数に含めた、「開催地の観光

への時空間的影響」が生じる仕組みに関する示唆を得ることを目的とする。ただ、先行実証研究との傾向の違いについても、解釈上の制約を意識しながら言及する。

### 3. 調査概要

豊岡演劇祭 2023 の公式来場者アンケート調査では、2023 年 9 月 14 日（木曜日）から 9 月 24 日（日曜日）までの会期中に、メイン会場<sup>1)</sup>で A4 両面 1 枚アンケートが客席留置き方式で配布され、来場者退場時に回収された。紙媒体のアンケート用紙には、同じ内容の WEB アンケート（Google Form）にアクセスするための QR コードと URL が印刷され、WEB アンケートでの回答も可とした。また、WEB アンケートの回答期間は、周遊旅行中に豊岡演劇祭を組み込んだ来場者が旅行終了後にも回答可能とするため、9 月 30 日（土曜日）とした。なお、開催期間を通して 1 回のみアンケートに回答するよう依頼した。

以上の調査の結果、1,675 名分の回答が得られた（内、WEB アンケートによる回答は 90 名）。同演劇祭の延べ来場者数は 23,647 人名であった（豊岡演

劇祭実行委員会、2024）。なお、同アンケートへの回答者のうち豊岡市、養父市、香美町からの来場者は、演劇祭開催地の住民とみなされ、会期外の開催地への再訪意向の目的を問うことができないことから、これらの来場者を除く 846 名分の回答を分析対象とした。

### 4. 分析概要

豊岡演劇祭 2023 の公式来場者アンケート調査の質問項目の内、本研究の分析対象となった主な項目（変数）は表 1 の通りである。「開催地訪問経験」と「演劇祭訪問経験」は先行実証研究（直井ほか、2023）に含まれない変数である。また、「鑑賞作品数」は先行実証研究では変数に含めていたが、今回は含めなかった<sup>2)</sup>。開催年以外で豊岡演劇祭 2022 の公式来場者アンケートからの変更があった項目は変数名に注釈をつけている。

表 1 に示す選択肢の内、①などの丸付きの数字は、データ入力時に変換した数値を表している。例えば「①今回が初めて」は 1 に変換している。変数の内、「年間観劇回数」と「開催地訪問経験」は選択

表 1 本研究の分析対象項目（変数）

変数名	質問の文言	選択肢
年間観劇回数 <sup>3)</sup>	演劇鑑賞の頻度について教えてください。	③よく観賞する、②たまに観賞する、①今回が初めて、より 1 択
演劇祭主目的度	今回の旅行は豊岡演劇祭 2023 が主な目的ですか。	（はい）← 4・3・2・1 →（いいえ）で、あてはまる数字を 1 択
演劇祭感想	豊岡演劇祭 2023 の全体的な感想をお聞かせください。	④大変良かった、③良かった、②普通、①良くなかった、より 1 択
訪問地合計数 <sup>4)</sup>	「今回の旅行で豊岡演劇祭 2023 の観劇以外に観光をしましたか？またはする予定がありますか？」を「はい」「いいえ」からの 1 択で尋ね、「はい」の場合に「訪れた場所、または今回訪れる予定の場所を教えてください。」と尋ねた。	その他を含む 20 選択肢（場所） <sup>5)</sup> を複数回答可で選択してもらい、選択された場所の実数を集計 <sup>6)</sup>
演劇祭再来場意向	次回も豊岡演劇祭にお越しいただけますか。	④絶対行く、③たぶん行く、①行かない、②わからない、より 1 択
開催地再訪意向	豊岡演劇祭の開催期間外に豊岡演劇祭 2023 の開催地にまた行きたいと思えますか。	④また行きたい、③たぶん行く、②わからない、①行かない、より 1 択
開催地訪問経験	これまで、豊岡演劇祭 2023 の開催地にお越しになったことはありますか？	④過去に住んでいた、③数え切れないくらい、②数回くらい、①初めて、より 1 択
演劇祭訪問経験	豊岡演劇祭にお越しになったことはありますか？	③3 回目、②2 回目、①今回が初めて、より 1 択

肢間の程度の差が等間隔だと仮定できず、「演劇祭再来場意向」、「開催地再訪意向」は、「たぶん行かない」が選択肢に含まれないことから、程度を表す尺度だが等間隔ではないと考え、順序尺度であり、間隔尺度ではないと理解する。表1中のそれ以外の4つの変数は、等間隔だとみなしうと考え、順序尺度でも間隔尺度でもあると捉える。

分析では、表1に示す8つの変数間の相関係数を算出し、その有意確率を算出した。また、前述の通り、これらの変数のうち4つは、等間隔が仮定できない順序尺度で、間隔尺度ではないと見なされるため、順序尺度で測定された変数間の相関の正負の方向と強度を算出できる、Spearmanの相関係数を用いることとした。なお、Spearmanの相関係数は、

データの分布の正規性を前提とせずに算出されるため、正規性の検定は行わない。

## 5. 分析結果

回答者の特徴は表2に示すとおりである。

性別は男性よりやや女性が多く、年齢は中年層が目立つが20歳代も一定数いる。また、同伴者がいた回答者が大半で、宿泊した回答者が多いが日帰りも40%弱いる。20歳代が目立つことと、同伴者ありがほとんどであること以外は、先行実証研究の結果と類似する<sup>7)</sup>。訪問地は、城崎温泉と豊岡市街地が目立ち、以上の2つの訪問地のいずれかから徒歩あるいは公共交通機関で30分以内の2か所が、

表2 回答者の属性と行動

属性	選択肢	人数	割合 (%)
性別 (1 択)	男性	345	40.8
	女性	481	56.9
	その他	9	1.1
	無回答	11	1.3
年齢 (1 択)	15歳未満	14	1.7
	15-24歳	176	20.8
	25-34歳	80	9.5
	35-44歳	72	8.5
	45-54歳	169	20.0
	55-64歳	216	25.5
	65-74歳	87	10.3
	75歳以上	26	3.1
	無回答	6	0.7
同伴者 (1 択)	有	768	90.8
	無	78	9.1
宿泊数 (1 択)	日帰り	312	36.9
	1泊	244	28.8
	2泊	154	18.2
	3泊以上	106	12.5
	無回答	30	3.5
訪問地 (複数回答可) ※割合5%未満省略	城崎温泉	299	35.3
	豊岡市街地	127	15.0
	城下町出石	64	7.6
	玄武洞公園	44	5.2



回答者の5%以上より回答されている。

次に、本研究で対象とする8つの変数(表1)の回答結果を報告する。実数がデータとなる「訪問地合計数」は記述統計を算出し、平均値0.83、最小値0、最大値7、標準偏差1.07であり、訪問地がない回答者が少なからずいることがわかる。それ以外の変数は、選択肢が少数で、順序尺度を前提とするSpearmanの相関係数を算出することから回答の分布を示す(表3)。

「年間観劇回数」に関しては、豊岡演劇祭2023で初めて演劇を鑑賞した回答者は一定数いるが観賞経験者が多数で、演劇祭の主目的度の非常に高い回答者が大多数である。「演劇祭感想」、「演劇祭再来場意向」、「開催地再訪意向」は評定値が高い回答者の割合が大きい、後者2つは「分からない」と答えた回答者も一定数いる。

「開催地訪問経験」は「初めて」が過半数だが訪問経験者も全回答者の40%強で、開催地訪問経験者の中では「数回くらい」が大多数である。「演劇祭来場経験」も「初めて」が回答者の60%強と多数だが、来場経験者も合わせて30%弱いる。

なお、「年間観劇回数」、「演劇祭再来場意向」の無回答者の割合が回答者の10%を超え、「演劇祭感想」は20%を超えている。無回答者の割合が比較的小さい「開催地訪問経験」は紙媒体の豊岡演劇祭2023の公式来場者アンケートの表面の前半、「演劇祭主目的度」は表面の後半、残りは裏面に記載されており、裏面の質問項目を見落とした回答者が多い可能性が考えられる。

次に、表1に示す8つの変数間のSpearmanの相関係数を算出し、その有意確率( $p$ )を算出した結果を図1に示す。図1には5%以下の水準で有意な相関係数のみを示している。なお図1は、「年間観劇回数」が「開催地訪問経験」と「演劇祭来場意向」を媒介するといった変数間の構造モデルを示しておらず、複数の変数ペア間の有意な相関関係を一括して視覚的に示している。先行実証研究(直井ほか, 2023)では変数としていなかった「開催地訪問経験」と「演劇祭来場経験」、および「訪問地合計数」(空間的影響)、「(演劇祭期間外の)開催再訪意向」

は色づけをしている。また「開催地訪問経験」と「演劇祭来場経験」に関わるもの以外で、先行実証研究では見られなかった、または傾向の異なる相関関係<sup>7)</sup>を太線で示している。

ここでは、観光への空間的影響を示す「訪問地合計数」、時間的影響を示す「開催地再訪意向」、「開催地訪問経験」と「演劇祭来場経験」に特に焦点を当て、あくまで将来の研究での検証モデル構築のための手掛かりを示すものとして試行的に考察する。また、アンケートの内容の違いなどから単純比較は難しいが、先行実証研究(直井ほか, 2023)では見られない、または傾向の異なる関係<sup>7)</sup>について言及する。

演劇祭の観光への空間的影響については、「訪問地合計数」と「年間観劇回数」の間に有意な正の相関関係があり、回答者の先有傾向に当たる観劇習慣が彼らの行動と正の関係を持つ可能性が示唆される。ただ、「演劇祭主目的度」との間の有意な負の関係、つまり主目的度の高い回答者ほど訪問地の数が少ない傾向も示され、これは先行実証研究には見られない傾向である。

演劇祭の観光への時間的影響については、「開催地再訪意向」と「演劇祭感想」、「演劇祭再来場意向」との間に有意な正の相関関係がある。また、先行実証研究には見られない傾向として、「演劇祭主目的度」、本研究で追加した、来場者の過去の行動に関する変数である「開催地訪問経験」と「演劇祭来場経験」との間に有意な正の関係が見られた。これは、回答者の演劇祭に関するこだわり、前向きな感想や再訪意向が彼らの行動意向と正の関係を持つという空間的影響の可能性を示唆すると考えられる。また回答者の先有傾向に当たる「演劇祭主目的度」と彼らの行動意向との間の正の関係が示唆されている。本研究では変数間の媒介関係を実証できないが、「演劇祭来場経験」は、「開催地再訪意向」との間に正の相関関係のある「演劇祭主目的度」、「演劇祭来場意向」との間に、「開催地訪問経験」は「演劇祭来場意向」との間に有意な正の相関関係を持っており、他の変数との関係を通して「開催地再訪意向」と正の関係を持つ可能性が考えられる。

上記以外の先行実証研究との違いは、「年間観劇回数」と「開催地再訪意向」の間の有意な正の関係が見られなかったこと、「演劇祭主目的度」と「演劇祭感想」の間の有意な正の関係が見られたことである。前者については、本研究では「年間観劇回数」

をより大まかなカテゴリーで尋ねており、回答者の細かな差異の影響が反映されなかったことが考えられる。後者については、「演劇祭主目的度」が高評価に偏る傾向に大きな違いは無く<sup>7)</sup>、データからの解釈は難しいが、回答者が期待していた演目への

表3 分析対象変数の回答の分布

変数	選択肢	人数	割合 (%)
年間観劇回数 (1 択)	①今回が初めて	135	16.0
	②たまに観賞する	419	49.5
	③よく観賞する	195	23.0
	無回答	97	11.5
演劇祭主目的度 (1 択)	1	25	3.0
	2	32	3.9
	3	117	13.8
	4	604	71.4
	無回答	68	8.0
開催地訪問経験 (1 択)	①初めて	475	56.1
	②数回くらい	264	31.2
	③数え切れないくらい	61	7.2
	④過去に住んでいた	32	3.8
	無回答	14	1.7
演劇祭来場経験 (1 択)	①今回が初めて	521	61.5
	②2回目	152	18.0
	③3回目	90	10.6
	無回答	83	9.8
演劇祭感想 (1 択)	①良くなかった	2	0.2
	②普通	27	3.2
	③良かった	292	34.5
	④大変良かった	354	41.8
	無回答	171	20.3
演劇祭再来場意向 (1 択)	①行かない	10	1.2
	②わからない	131	15.5
	③たぶん行く	366	43.3
	④絶対行く	194	22.9
	無回答	145	17.1
開催地再訪意向 (1 択)	①行かない	15	1.8
	②わからない	157	18.6
	③たぶん行く	191	22.6
	④また行きたい	402	47.5
	無回答	81	9.6

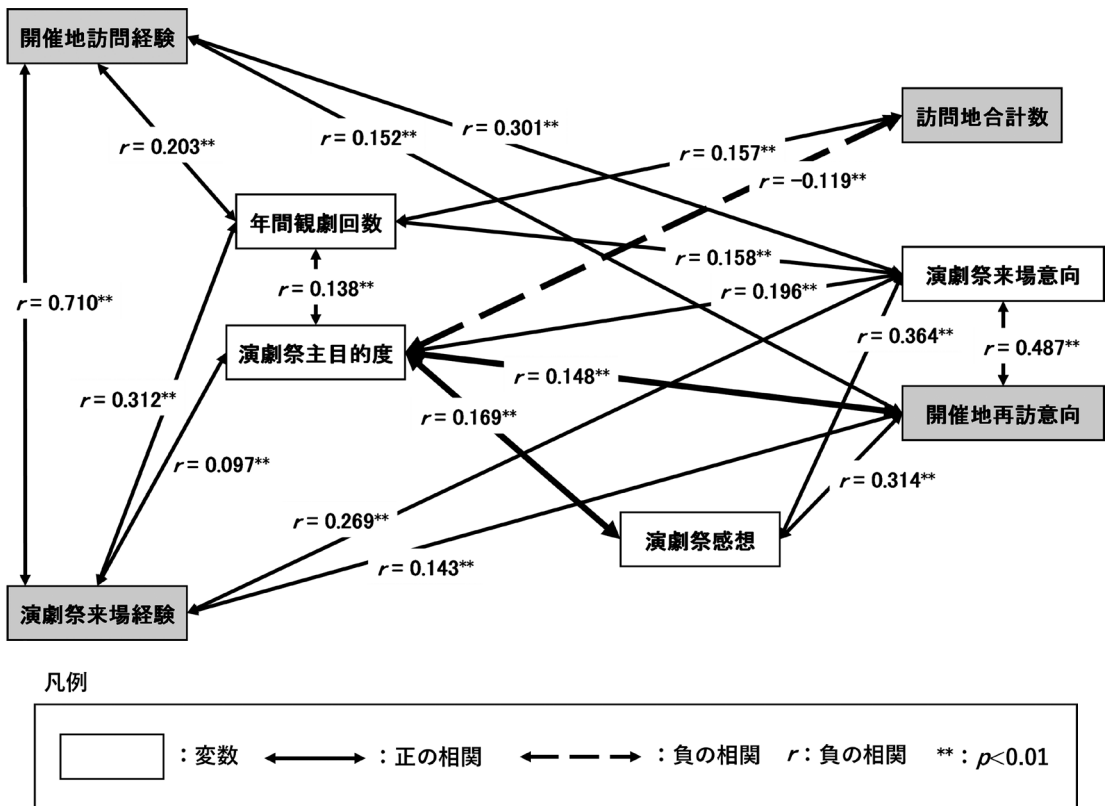


図1 変数間の相関係数 (Spearman) と有意確率

満足度が高かった可能性などが考えられる。

## 6. おわりに

以下に、本研究の結果得られた考察と、将来の「演劇祭による来場者の行動及び行動意向への時空間的影響」に関する示唆を示す。

会期中の回遊や会期外に開催地を訪れるといった「演劇祭来場者の行動および行動意向」と、演劇祭に関する経験・評価といった「来場者の会期中の経験に関わる要因」、および「来場者がもともと観劇に関して持っていた先有傾向」の間に有意な正の相関関係が見られた。これは先行実証研究と類似した傾向であり、演劇祭の来場者行動への時空間的影響を説明するモデルにこれら2つの要因を組み込む必要性が示唆される。

ただ、観光への空間的影響を示す「訪問地合計

数」との間の有意な正の相関関係を持つ変数は「年間観劇回数」のみで、時間的影響を示す「開催地再訪意向」と比べると、有意な正の関係を持つ変数の数が少ない。本研究では訪問地を観劇目的以外に絞り選択肢も変更したこと<sup>4)</sup>が結果に影響を及ぼした可能性があり、解釈に慎重になる必要はあるが、「来場者の観劇行動及び芸術祭に対する評価」、「過去の開催地への訪問及び演劇祭への来場経験」を示す要因を持つ「開催地の観光への空間的影響」は限定的である可能性が示される。

本研究とは手法が異なるため単純比較は難しいが、「2. 研究の背景」で示した、訪問客の訪問地での移動と過去の訪問経験の関係を分析した先行研究の結果を参照すると、広域移動や都市内で訪問する場所の数がリピーターほど絞られる傾向がここでも反映されている可能性がある。特に「演劇祭主目的度」が高いほど「訪問地合計数」が少ない傾向

が示されていることから、演劇鑑賞に注力した訪問客は、周辺への回遊を抑える可能性が考えられる。

ただ本研究では、都市内の町並みなど、狭域内の移動を示すデータは得られていない。表2が示すとおり、「城崎温泉」、「豊岡市街地」、「城下町出石」といった豊岡市内のエリアを訪問地としてあげた回答者が一定数おり、これらのエリアでは、ふと立ち寄った店舗など、場所名を明確に意識しない回遊がされる可能性がある。以上から、回答者の想起に加え、行動追跡などで来場者の滞在時間と行動範囲を把握することが有効となる可能性がある。

本研究で加えた「開催地訪問経験」と「演劇祭来場経験」に関しては、いずれも、演劇祭の観光への時間的影響を示す「開催地再訪意向」との間に有意な正の相関関係が見られた。少なくとも豊岡演劇祭に関しては、過去の経験が演劇再来場あるいは開催地訪問意向を高めるというサイクルが生成されつつある可能性が考えられる。ただ、先述の通り、これらの過去の経験と、観光への空間的影響を示す「訪問地合計数」との間の直接の相関関係はない。他の変数を介した正の関係がある可能性は考えられ、狭域の移動傾向を把握し切れていない課題もあるものの、過去の経験と毎回の訪問時の回遊行動の間の関係はそれほどクリアではない可能性がある。

最後に「本調査の調査設計上の主な制約」以外の本研究の制約について述べる。先行実証研究でも同様だったが、観劇経験がある回答者が多く、豊岡演劇祭が主目的の回答者が大半だった。そもそも演劇祭を主目的とする人が大半を占めている可能性はあるが、例えば、より幅広い同行者からの回答を得ることができれば、「誘われて同行した」など、演劇祭が副次的な目的である訪問客からの回答を得られる可能性が高くなるかもしれない。アンケートへの回答数は、実証先行研究（直井ほか、2023）の1,124名から増えたが、延べ来場者数も2022年の18,250名から23,647名に増え、開催地居住者を合せても、演劇祭の延べ来場者数の6-7%程度であることは同様である。1回の回答が前提の回答者数と延べ人数の単純比較には慎重になる必要があ

るが、無回答の割合が10%を超える項目が散見されることを考えると、アンケートの内容や回答する環境などに工夫が必要かもしれない。また、実証先行研究と同様、各訪問地を選択した回答者の割合が小さく、全体的には実証先行研究よりも割合が小さくなっている。観劇以外の訪問に対象を絞り、選択肢の数も絞ったこともあり、回答者が観光目的での訪問を想起して回答しやすくなったと想定され、シンプルに彼らの行動の実態が反映された結果である可能性はある。ただ、より詳細な行動の実態の把握のためには、回答者の想起に頼らずに取得できる行動データの活用が考えられる。

#### 謝辞

豊岡演劇祭2023公式アンケート調査のデータの活用を許可して下さり、アンケートに本研究に資する質問項目を組み込んでくださった、豊岡演劇祭実行委員会ならびに豊岡市観光文化政策課の皆様には謝意を表する。

#### 注

- 1) アンケートを配布したメイン会場は以下の通りで、ディレクタープログラム（城崎温泉内各会場のみフェスティバルプロデュース）への来場者に配布した：豊岡市民会館、豊岡市民プラザ、芸術文化観光専門職大学静思堂シアター、城崎温泉内各会場（さんぽう西村屋本店、三木屋、おけしょう鮮魚 海中苑 駅前店、城崎町家地ビールレストラン、GUBIGABU、RESTAURANT Ricca）、城崎アートセンター、但馬漁業協同組合 竹野支所、氣多神社、出石永楽館、大生部兵主神社、やぶ市民交流広場、香住区中央公民館
- 2) 豊岡演劇祭2022では「豊岡演劇祭2022ではどれくらいの作品を観劇されましたか（観劇予定を含む）」と尋ねて実数での回答を求め、豊岡演劇祭2023では「豊岡演劇祭ではどのくらいの作品を鑑賞されましたか（観劇予定を含む）」と質問し、有料公演と無料公演に分けて実数を尋ねた。豊岡演劇祭2023の紙媒体のアンケートでは観劇数が0の場合は「0」と回答するようには求めなかったため「0」という回答と空欄が混在し、空欄が無回答か「0」のどちらを意味するのか判断できなかった。また無料公演が「2-3」、「4-6」という正確な数字が判断できない回答が2件、有料公演「10000」という回答が1件あった。以上から回答の信頼性が十分ではないと判断し、変数には含めなかった。
- 3) 豊岡演劇祭2022では質問が「例年の年間の演劇鑑賞の頻度について教えてください」で、①今回が初めて、②年に1-2回、③年に3-4回、④1-2カ月に1回、⑤



それ以上、からの1択を求めた。

- 4) 豊岡演劇祭2022では質問が「今回訪れた場所、または今回訪れる予定の場所があれば教えてください」でその他を含む28選択肢からの複数回答可での選択を求めた。
- 5) 選択肢は以下の通りである：  
城崎温泉、城崎マリワールド・日和山、気比の浜海水浴場、玄武洞公園、コウノトリの郷公園、豊岡市街地（カバンストリート等）、竹野海岸、神鍋高原、植村直己冒険館、城下町出石、シルク温泉、氷ノ山・ハチ高原、おおやアートBIG LABO、木彫フォークアートおおや、山田風太郎記念館、明延鉦山、大乘寺、余部鉄橋、かすみ・矢田川温泉、その他
- 6) 「その他」に関しては、開催地（2市1町）内ではない、または空欄などの理由で開催地内かどうか分からない場合は合計数に含めず、開催地内であり、他の選択肢との重複がないものは含めた。
- 7) 先行実証研究の結果については引用文献中の表2、3と図1を参照のこと。

## 文献

- Funk, D. C. et al. (2007) “International sport event participation: Prior sport involvement; destination Image; and travel motives”, *European Sport Management Quarterly*, 7 (3), pp. 227–248.
- Gali-Espelt, N., & Donaire-Benito, J.A. (2006) “Visitors’ behavior in heritage cities: the case of Girona”, *Journal of Travel Research*, 44 (4), pp. 442–448.
- Hughes, H. (2000). *Arts, entertainment and tourism*, London: Routledge.
- Murphy, P. E., & Oppermann, M. (1977) “First-time and repeat visitors to New Zealand”, *Tourism Management*, 18, pp. 177–181.
- 直井岳人・野津直樹・河村竜也 (2023) 「演劇祭による観光への時空間的影響：豊岡演劇祭2022を事例とした試行的分析」『芸術文化観光研究』第2号 pp.131–138.
- Shoval, N., & Isaacson, M. (2009) “*Tourist mobility and advanced tracking technologies*”, New York: Routledge.
- 豊岡演劇祭実行委員会 (2024) 豊岡演劇祭2023報告書 [file:///C:/Users/tnaoi/OneDrive/%E3%83%89%E3%82%A%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88/2024%E7%B4%80%E8%A6%81%E5%86%8D%E6%8F%90%E5%87%BA/TTF2023\_Report\_full.pdf] (2024年5月17日閲覧)
- Yoo, J. J., & Chon, K. (2008) “Factors affecting convention participation decision-making: developing a measurement scale”, *Journal of Travel Research*, 47 (1), pp. 113–122.